

授業科目名	器質性構音障害学（口唇口蓋裂）	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	上村 朋久	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>構音器官の先天性、後天性の形態異常が原因となって発生する構音障害は器質性構音障害と分類される。本科目では、器質性構音障害発生の機序、構音障害の言語病理学的特徴・検査・評価・診断・治療・訓練法等について講義する。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 器質性構音障害の理解に必要な基礎知識を学習する。 ・ 代表的な口蓋裂構音障害（先天性鼻咽腔閉鎖不全、粘膜下口蓋裂を含む）の特徴および検査・治療・訓練目標・訓練方法等を学習する。 ・ その他の先天性、後天性の原因による器質性構音障害として、舌の先天性形態異常と後天性の口腔腫瘍術後の構音障害の特徴および治療・訓練目標・訓練方法等を学習する。 				
授業回数	授業内容				
第 1 回	器質性構音障害とは 分野に関わる解剖				
第 2 回	器質性構音障害（口唇口蓋裂）の病態				
第 3 回	器質性構音障害（口唇口蓋裂）の音の誤り				
第 4 回	器質性構音障害（口唇口蓋裂）の治療方法 術式など				
第 5 回	器質性構音障害（口唇口蓋裂）の評価と訓練				
第 6 回	器質性構音障害（口唇口蓋裂）のリハビリテーションの進め方（全体）				
第 7 回	まとめ				
第 8 回	器質性構音障害（舌癌）病態				
第 9 回	器質性構音障害（舌癌）の治療方法と音の誤り				
第 10 回	器質性構音障害（舌癌）のリハビリテーション				
第 11 回	器質性構音障害（舌癌）のリハビリテーション				
第 12 回	その他のがん（口腔・顔面領域）の病態				
第 13 回	その他のがん（口腔・顔面領域）のリハビリテーション				
第 14 回	その他の器質性構音障害				
第 15 回	まとめ				
評価方法	小テスト20%、定期試験80%で総合評価する				
教科書 参考図書	〔教科書〕 口蓋裂の言語臨床 第3版				
履修上の 留意点	教科書および配布資料を熟読すること。				
メッセージ					